

まちの話 だい

4月6日 | みんな一緒に大きくなあれ

アユ釣りシーズンに向けて、新大井川非出資漁協が家山川に稚アユを放流。かわね保育園の年長児30人が、お手伝いに駆け付けました。

満開の桜の下、子どもたちは組合員と一緒に体長10cm程の稚魚を小さなバケツに移して、優しく川に放ちました。園児は、勢いよく泳ぎ出したアユに歓声を上げながら「元気に育って帰って来てね」と笑顔で遡上を願いました。



4月15日 | 春の山間に広がる星空

千葉山ハイキングコースにある、標高約300mの尾根に広がる「どうだん原」では、純白の可憐なドウダンツツジの花が、見ごろを迎えました。

スカイペンション「どうだん」から15分ほど歩いた先にある同地には、約8,000本のドウダンツツジが群生しています。花の名前を漢字で書くと「満点星」。まさに夜空の星のように咲き誇る花は、多くのハイカーの目を楽しませました。

4月7日 | 無事故を願う黄色いバッグ

市交通安全対策協議会は、新入学児童の交通安全を願い、市内の新小学1年生全員に黄色い「通学バッグ」を贈りました。

島田第四小学校では、入学式で72人の新入学児童に通学バッグを贈呈。代表の児童3人は、島田警察署員・交通安全協会交通安全指導員・市交通指導員からバッグを受け取り、交通安全や交通マナーを守ることを約束しました。





4月21日 | 郵便ポストも「緑茶化」

市内でも新茶初取引があったこの日、市役所正面にある郵便ポストが、赤色から「緑茶グリーン」に変わりました。

これは、シティープロモーション「島田市緑茶化計画」の一環で、ポストの緑色への塗り替えは県内初。お披露目式では、こぼと保育園の年長児12人が、茶の葉形の手紙に家族への感謝の気持ちを書いて投函とうかんしました。

4月9日 | 伝統の舞を厳かに奉納

東光寺の日吉神社で、300年以上も前から伝わる「猿舞さるまい」が、古式ゆかしく奉納されました。雌雄の猿の面を付けた地元の子どもがユーモラスに舞うこの猿舞は、県の無形民俗文化財に指定されています。

今年の舞人を務めたのは、亀山優菜・ほのかさん姉妹。二人は、小猿の面をかぶり息を合わせて「三種の舞」を厳かに舞いました。



4月25日 | 笑顔がこぼれる春の一服

本格的な新茶シーズンを迎え、市茶業振興協会島田支部による新茶の無料呈茶サービスが、市役所ロビーで行われました。

日本茶インストラクターや島田茶業青年団専属の茶娘が振る舞ったのは、初倉地区で収穫されたばかりの「やぶきた」。茶娘のPRに多くの来庁者が足を止め、この時期ならではの香り豊かな一服を堪能していました。